

愛知工業大学

- コンクリート工事管理システムにおいて、みちびきのサブメータ級測位補強サービス(SLAS)を利用した測位情報による工事位置データの活用を実際の建築現場で確認した。
- 工事作業者の測位データと、コンクリートポンプの吐出量データを取り込んで、仮想の三次元モデルにコンクリートが打ち込まれる状況をリアルタイムで示し、工事の進捗が可視化されて現場管理に有効であることが確認された。
- 熟練作業者のノウハウが見える化でき、作業順序の適正化が可能となることで作業の効率化に貢献し、工事品質の向上・省人化・技術の伝承・技術力向上に寄与できる。

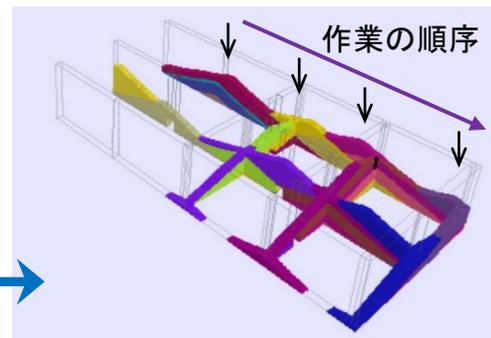
作業員位置の測位の仕組み



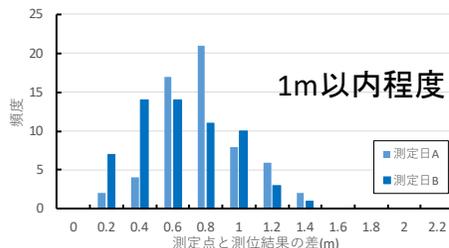
実証実験の工事の場所と工事の状況



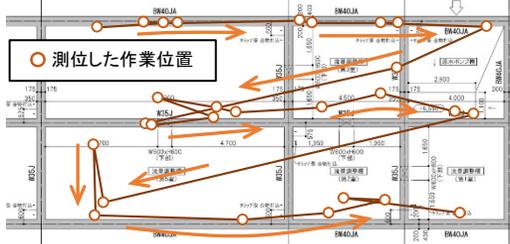
工事管理システムの画面表示結果



測定点と測位データの差



SLASで追尾できた作業の順序



事業化の展開

- ・R3年度も竹中工務店の建築現場でも継続して実施予定
- ・三次元モデル作成・計測サポートを含めたパッケージサービスを計画